

私のちいさなよっしゃ！

1. いけると思っていました 賞	
投稿者	S・A 様
プロフィール	2020.4入職 ユニット型特養 CW
タイトル	介護職に転職して
内容	<p>介護の仕事へ転職して2年が経ちますが、まだまだ、自分の中では未熟な所が多く、周りの方に助けてもらってばかりです。 ですが、育成をしてくださった方に「オムツ巻くの上手くなったね！」と言ってもらえることがあり、未熟だと思っている私にはすごく嬉しい言葉でよっしゃ！と思えました。</p> <p>また、職場以外でも、自宅で祖母の介護が始まり、両親の手助けや提案をすることができ、転職して介護を経験していなければ、自宅で介護は間違いなく、てんやわんやする所でした。そこでも、よっしゃ！と思えました。</p>
評	<p>未経験で入職された方の不安な心境と、支える側が投げかける言葉の大切さを気づかせてもらえる素敵なよっしゃ！でした。</p> <p>福祉、介護の仕事に就いて良かったことを多くの人に知ってもらい、介護のお仕事に興味を持っていただきたいというのが「小さなよっしゃ！プロジェクト」の目標・目的の一つでもあり、現在施設内で試行錯誤している、介護の仕事に就こうとされている方への育成方法についてのアイデアも表現されていると思います。</p> <p>その時々で臨機応変に、優先順位を決めて、個々に合わせた対応ができる判断力、技術、知識などが必要とされるこの福祉・介護のお仕事は、新人さんも経験豊富になっても、明確な正解がないために不安や自問自答は続くものだと思います。不安だからこそ慎重に気を配る毎日の中で、ホッとしたり、嬉しくなったり、やる気がでるのは、癒しをくださるご利用者だけでなく、育成者や、同期や、上司といった、この仕事の大変さを知っている仲間が存在なのかも知れません。技術、知識を伝達するだけでなく、嬉しくなる言葉の伝えあいができる雰囲気づくり、育成をめざしたいと思えました。 仕事だけでなく、ご自宅でも身に着けたことを活かすことができる、人と触れ合い支え合うこの仕事の魅力の一つなのかもしれません。</p>

2. ひとりじゃないからやれちゃいました 賞	
投稿者	M・T 様
プロフィール	2020.4入職 ケアマネジャー
タイトル	新人研修が上手いってよっしゃ!!
内容	<p>R4.3月に実施した新人研修の統括を担当させていただきました。</p> <p>始めは、何から手を付ければいいのか、本当に私に出来るのか不安でしたが、わかば館事務所や、本館の職員さんにサポートをして頂き、なんとか最後までやりきることが出来ました。</p> <p>新人研修を受けた方からも、勉強になったことや、受講して良かったというお言葉をいただき、改めて新人研修ができて良かったという気持ちと、安堵感がありました。</p>
評	<p>プロフィールからもわかるように、新人として研修に参加した翌年に統括担当になるという偉業を、自ら進んで受け入れ、無事にやり遂げた、まさに「よっしゃ！」と一緒に言いたくなる内容でした。</p> <p>研修に参加していても、それがどのような仕組みや準備を必要として開催されているかまで考えることは少ないと思いますが、新人研修は、施設内・外へ講師を依頼することもあり、日程調整や、場所の確保、資料作成、出欠確認など多岐にわたる工程があります。研修終了まで、言葉では表現できない心労もあったと思います。</p> <p>新人研修の開催の裏では、協力を依頼したり、進捗を確認したりする、統括・調整役としての育成も前任者から行われているという、みんなでスキルアップをしている研修です。新人様にも、経験者にも有意義な機会として、今後も取り組みを行っていきたいと思います。</p>

## あの人の小さなよっしゃ！

3. あなたの努力や工夫を、みんなが知っています 賞	
投稿者	K・A 様
投稿者	H・H 様
あの人	T・H 様
プロフィール	K・A様2009.11入職 H・H様2011.8入職 T・H様2011.4入職 従来型特養CW
西田様タイトル	コロナ流行の中で何かご利用者に屋内で楽しんでもらえる事を。
内容	2020年春以降、新型コロナウイルス感染症の流行でご利用者の外出も控えることになり、何か施設内で定期的に楽しめる事をしようと、スイーツ菓子のレクを企画され、2021年も、本年度も継続して、フロア職員の手も借りながら野菜や果物を育てて、みんなで収穫して、食べてもらって、ご利用者の皆さんに喜んでもらっています。 2年間にわたって、ほぼ毎月1回、企画、準備、実施され続けておられる東元CWによっしゃ！です。
細田様タイトル	食事時にお口をあいて下さる工夫
内容	東元CWは食事介助時に、大きなお口を開いて発語をしてくださるよう、いつも工夫をされている。その声掛け、促しの仕方を他の職員もまねてみると、食事時に口を開いてくださることが多くなりました。
評	企画をするには、ご利用者にも参加いただける工程を探し、経費や時間も考え、食べやすい形態にできることなど、多数の配慮をしながら、さらに試作品をつくり、本当に可能なかを実践し、ご利用者様が楽しみにされている機会だからこそ、労力を惜しまず楽しい企画になるよう準備をしてくださっていると、それを何年も継続しておられることが本当にすばらしいとの推薦です。ピロティで栽培した野菜で作るみそ汁は、なすびや翌年は玉ねぎと苗を植え、育てるところからレク企画と連動しているようで、ハンバーグが、お好みでハンバーガーにもできると選ぶことができる楽しみも、念入りな前準備があつてこそできることであると思います。 口を開けて頂けるように声掛けには、「驚ないたよホーホケキョ」や、「あたり前田のクラッカー」などと、なんともしゃやかな気持ちになる掛け合いがみられ、ただ単に、「お口を開けて」という声かけよりも、ご本人様に馴染みのある言葉を選ぶなどの工夫とご利用者への思いが現れていると思いました。 労力をかけて、配慮して、利用者も思っていて実行されている姿をみて、周囲のスタッフが自分たちも協力し、頑張ろうと思えること、素晴らしい取り組みをしていることを施設内・外にもっと知ってもらいたい、企画や介護方法を考える時の参考にしてもらいたいとカードを作成してくださった事は、お互いを認め合い、全体の士気があがることに繋がっており、これも「小さなよっしゃ！プロジェクト」を通して取り組みたい目標・目的です。
4. 助けられてよかった。ほんまによかった 賞	
投稿者	R・K 様
あの人たち	デイサービススタッフ
プロフィール	R・K様 2006年入職 ケアマネジャー デイサービス 2006年開所
タイトル	連携プレー
内容	ケアマネとして担当しているご利用者を、わかば館デイサービスが迎えに行くと、施設されているが屋内より「助けて」と叫び声が聞えるとの連絡をうける。遠方にお住まいのキーパーソンに連絡をすると、ガラスなどを割ってでも中に入れてほしいとの依頼を受ける。 ドライバーに依頼し、私自身も一緒に駆けつける。デイスタッフも、その場で待機してくれ、みんなでガラスなど開けられそうところを探すが、ガラスに格子が入った頑丈なもので割ることができない。ドライバーの機転で、勝手口ドア付近ならカッターで切ることができると判断し、短い時間で屋内に入ることができた。 ご利用者は転倒されていて、左大腿部を骨折されおり、救急車で搬送、入院、手術を受けられることになった。皆様の連携プレー有難うございます。
評	いつから倒れておられたかは不明ですが、搬送されたときには虚ろな状態になられていたという利用者様。駆けつけてきたスタッフの声や姿を見た時には、どんなにホッとされたであろうと考えると、お一人暮らしであるご利用者にとってのサービス利用は、日常生活の安否確認の機会にもなっているのだと改めて感じさせられる内容でした。高齢者が安心して生活できる環境として、定期的に訪問する私たち事業所もそのうちの1つになることを認識して、できれば危険察知や、何かが起こった時の連携や判断ができる体制を作っていきたいと感じました。 家を破壊する行為はあまり経験することがありませんが、機転と行動が機敏ですばらしく、テレビ番組でみるような、人を助けるためにこじ開けてでも入っていく、「レスキュー隊」をイメージしてしまいました。なんでもできる術を身に付けていることは、自分のみならず、みんなの頼れる存在であり、安心につながるのですね。
総評	今回のよっしゃは、「チームの力」をあらためて感じ、信じさせてもらえるものになりました。人からの評価は、自分の人知れぬ努力や工夫を、また自分が確実に進歩していることを、周りにはちゃんと見てくれるのだということにあらためて気づかせてくれます。 またそのようにして培われたチームワークが、あらたな課題や困難な状況にも対応できる力にもなる。それはきっと、さらに自分を前に進めていくエネルギーになることと思います。